

R 7 年度 自己評価・学校関係者公表シート

学校法人徳野学園 とくの幼稚園

1, 本園の教育目標

体育＊基本的生活習慣を身につけ、健康で明るい生活が出来る体力を育てたい

情操＊物事に感動する心や自然や動植物に興味や愛情を持つ豊かな人間性を育てたい

協調＊自分で学び、考え行動する力と自己を律しつつ他人と協力出来る社会性を育てたい

上記の 3 本を柱に、教師との信頼関係に支えられた中、友だちと充分に関わり一人ひとりが充実した園生活を展開していくよう配慮をした幼児教育を目指している。

2, 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教育的意味合いと保育を目的とした活動の中で、それぞれの良さを認め、つながりに意味が持てるように子どもたちと過ごす。以上児では、研修を通し学びが深まるだけでなく、継続的な運動の時間を確保するとともに、丈夫な身体づくりを目指し、子どもたちが楽しみながら身体を動かすための教材研究を職員たちが持ち寄り実践していく。また環境構成は子どもの成長に合わせたものとなっているかを、検証していく。未満児の受け入れでは家庭環境や月齢での身体的要素も考慮しながら乳児が心の面で安心できる空間の提供を行い、保護者の悩みや子育てに寄り添う。

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取り組み状況
研修に参加し、保育の振り返りとともに、チームで考え、学びが深まった。	チームでの共有を行うことで、同じ思いで子どもと関わり、保育者の意識を高められた。子どもから出る考えにすぐに対応できる結束力が増し、いろいろな方向性の中での意見を交わしながら実践出来た。
子どもの年齢に合わせた環境構成の構築	安心して過ごせる環境とは教師思いではなく、子どもの反応が大切だと気づき、繰り返しを大切に生活し、何度も繰り返しながら作り上げる思いとなった。 また生活の中で食事や睡眠にもこだわりがあるので、保護者とのやり取りも重要だと感じ連携を行い発達を促すことが出来た。

4，学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

研修のあり方を保育者が意識し、職員間の中で共有をする大切さを感じ組織力を高めていくことが増えた。また自分に足りないと感じるものや、偏った研修にならないように分野ごとの研修を見えるようにまとめたことで、課題を持って参加することができ、バランス良く学び知識が増えた。家庭との連携の中で、知識を生かした話を行い子どもの成長に多角的に関わりが持てた。

保護者が園内やお部屋に入ることが多くなり、直接環境や、保育者の関わり方を見てもらい、工夫していることが理解され、お便り発信と連動しながら、子どもの育ちを伝え信頼関係が深まった。

5，今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
環境構成のさらなる発展	外遊びの環境の充実を教師全体で、見直し白山市の自然を生かし、園外にも目を向ける。また園内では興味ある園庭やグラウンドづくりを目指し、家庭との連携の中で、生きる力の基礎となる力を遊びを通して育てる。
家庭支援と連携	様々な家庭環境、保護者の育児への思いが多様化する中で、子どもに必要な支援を明確化することや、園行事やサークル、おたよりを通して、自園の教育方針について成果や重要性を説明することにより、互いに共感し合い連携を図ることができただろう。 預かり保育の人数の増加とともに、保護者が働きながら負担なく子育てを楽しむことができるように、たくさんの大人との関わりを園で担うことが子どもの成長につながっていった。

6，学校関係者の評価

少子化に伴い、園児数減少要因や、未就学児と地域へ向けた園開放を工夫し幼児教育の良さを発信し、良好な運営状態をつくる。

7，財務状況

公認会計士による監査にて、適正に運営されていると認められている。